

掛川市の生涯学習運動

I 生涯学習運動の発想の原点

- 1 過疎地の村づくり、人づくりから生涯学習運動へ ～掛川学事始の提唱～
 - ・哀しい矛盾の図式・・・「紅葉の美しい所は貧しく、緑の豊かな所は不便、小鳥のさえずるところは淋しく、水清い所は住みにくく・・・」を腹に据えて地域学事始
 - ・“随所の時代”（随所に主となる）→各地域がその土地の特色に従ったまちづくりをする
 - ・随所の時代という時代認識に立ち、選択的定住民の誇りをもち、地方都市不振を克服する
 - ・「早く、安く、便利、効率」のファーストライフからスローライフ都市へ
 - ・“宿命的定住民”から、このまちが好きだから住む“選択的定住民”の多いまちへ
 - ・掛川市にある大日本報徳社の教えによる報徳ルネサンス運動（二宮尊徳顕彰）

- 2 教育の原点に帰ること・・・教育に関する二つの誤解・先入観・偏向を正す
 - ・「自然と地域と両親を乗り越える教育」から「自然と地域と両親を学び尊敬する教育」へ
 - 自然と地域と両親は、尊敬、学ぶに値するものであること、そして、なること
 - ・学校だけが、教育の場ではない。卒業しても、学べるし、学ぶべきである。
 - 生きることは自己教育である・・・自ら成長するものだけが人を成長させることができる

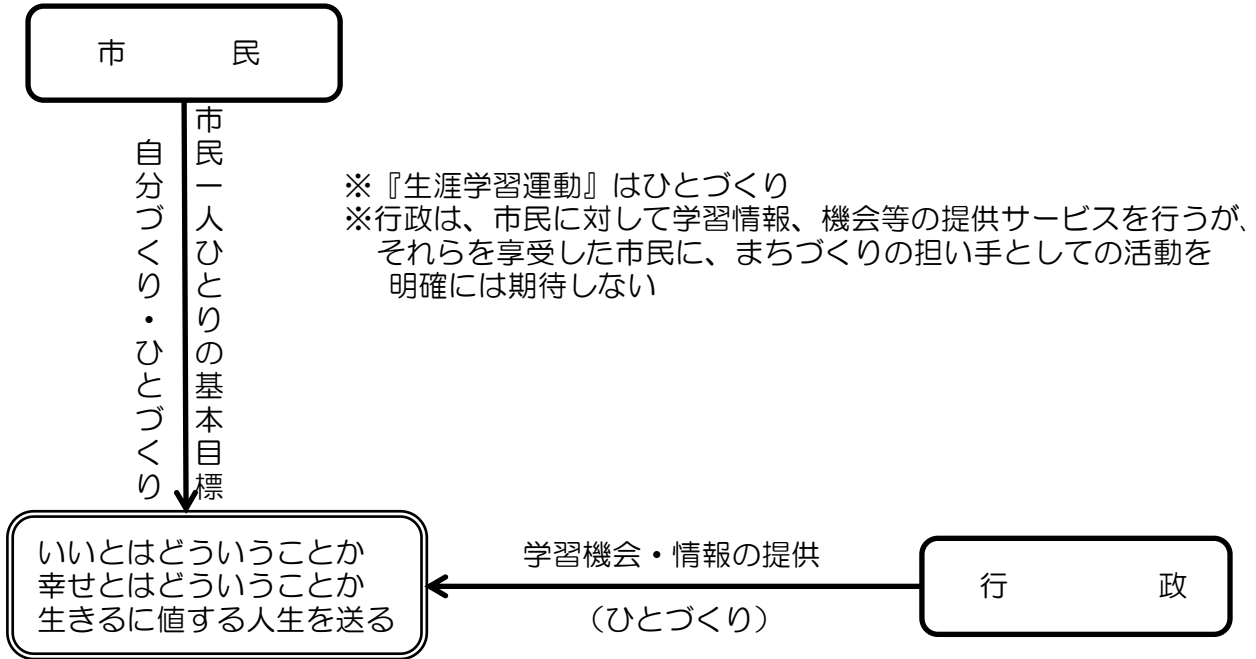
II なぜ生涯学習運動をするのか・その必要性和意義

民主主義を成熟させ現今の日本の諸問題解決のため生涯学習すべき必要性・根拠とは

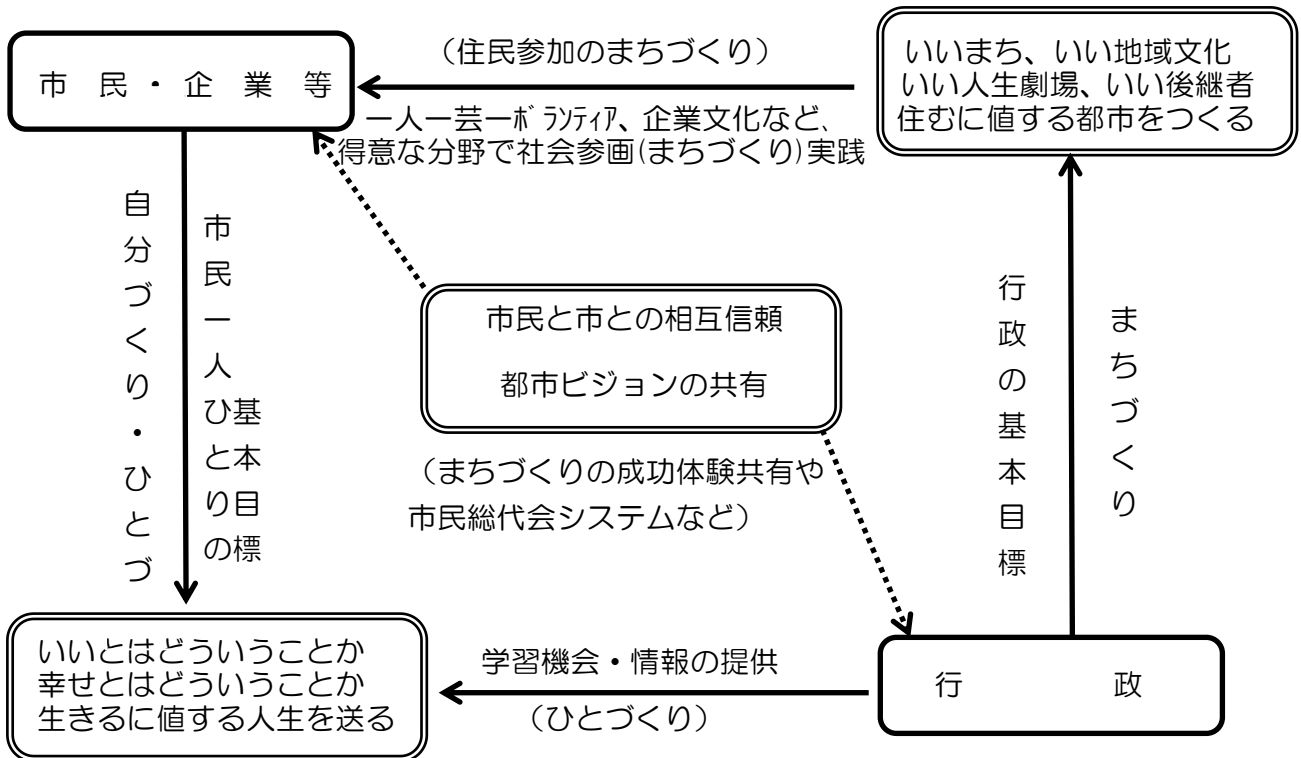
- 1 教育改革としての生涯学習＝学歴決算を排し生涯学習人間関係で多様化・自立化する
- 2 楽しむ・たしなむ生涯学習＝自由時間を活用し自己実現、多元的に豊かな生活をする
- 3 勉強を求められる生涯学習＝高度技術革新・情報化・地球環境問題に見識あるように
- 4 高齢化に対応する生涯学習＝伊達に年くわず、社会的コストかけずに死ぬための節制
- 5 まちづくりと同じ生涯学習＝わがまちを立派にしわが人生を立派にする人生舞台設定

Ⅲ 掛川市の生涯学習運動の特色

【一般的な生涯学習運動の概念図】



【掛川市の生涯学習運動の概念図】



※掛川市の『生涯学習運動』は、まちづくり・ひとづくり

※一人ひとりの生涯学習活動で自己を高めた市民が、このまちで活躍し、さらにこのまちをよくする担い手・主体として社会参画してもらうこと。そのために、市民にとって「生きるに値する都市・死に甲斐のある都市」になるよう、まちづくりを進めること。